

第29回近畿臨床工学会

ランチオンセミナー2-3

Luncheon Seminar2-3

日時 2023年12月10日(日) 12:00～13:00

会場 第3会場 アクリエひめじ
409会議室

〒670-0836 兵庫県姫路市神谷町143-2

NAVAとEdiの可能性 ～呼吸ドライブを捕捉する～

座長 小松 義輝 先生
北播磨総合医療センター 臨床工学室 室長

演者 落葉 佑昌 先生
岡山大学病院 医療技術部 臨床工学部門 主任

本セミナーは事前登録が必要です

共催:近畿臨床工学会 / フクダ電子兵庫販売株式会社

NAVAとEdiの可能性

～呼吸ドライブを捕捉する～

落葉 佑昌

岡山大学病院 医療技術部 臨床工学部門 主任

急性呼吸窮迫症候群 (acute respiratory distress syndrome: ARDS) は、重篤な低酸素血症を呈し、救命のため人工呼吸器を要するケースが非常に多い。ARDSの死亡率は非常に高いが死因は呼吸不全ではなく、その多くは多臓器不全が原因となっている。

人工呼吸器は、酸素化の改善、換気の改善、呼吸仕事を軽減することができるが、人工呼吸器が肺への侵襲となり、多臓器不全の原因となりうることがある。そのため、吸気努力の制御、患者-人工呼吸器間非同調、P-SILI対策などが必要となる。

神経調節補助換気 (Neurally adjusted ventilatory assist: NAVA) は、横隔膜電氣的活動 (electrical activity of diaphragm: Edi) を用いて吸気・呼気サイクルおよび吸気圧の調整を行う人工呼吸モードで、Ediをトリガーし吸気フェーズに入るため同調性に優れること、Ediの強さを患者の吸気努力の強さと捉え、Edi値に応じた補助圧を反映する他の人工呼吸器にはない特徴がある。また、Ediは呼吸ドライブをリアルタイムに捉えることが出来るため吸気努力の可視化や非同調の捕捉など臨床的利点が多い。

本セミナーでは、NAVAとEdiが臨床にどのように活用できるか皆様と一緒に考えていきたい。